

第 38 講 【 診断論 Ⅷ 】 教科書 P.117

『 脈状診で診る主な病脈 』

1. 祖脈

：最も基本的な脈状であり、その定義も極めて単純である。臨床でも最低限区別できなくてはならない脈状であり、特に六祖脈（浮・沈・遲・數・虚・実脈）は八綱弁証の六綱（表・裏・寒・熱・虚・実）と対応しており臨床意義は非常に大きい。脈象は病の本質を示していることが多く、祖脈の習得は病態の把握や誤診・誤治の予防に意義深い。

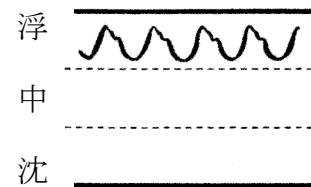
(1) 脈位の異常

「不浮不沈」の中取で最も明らかに触れる平脈に対し、浮取あるいは沈取したときに最も顕著な脈象が得られる場合をそれぞれ浮脈・沈脈という。

① 浮脈

【脈状】指を軽く置いただけでははっきりと脈に触れ、力を入れるにつれて脈が弱くなるがなくなる。

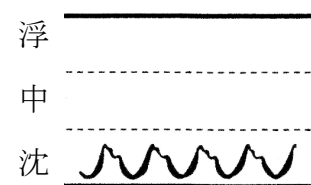
【主病】表証；(虚証)



② 沈脈

【脈状】浮取・中取ではあまりはっきり触れず、沈取すると明瞭に触れる脈。

【主病】裏証

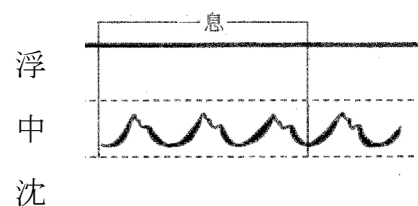


(2) 脈拍数の異常

正常では一息（一呼一吸）あたりの脈拍数が 4～5 回であるが、4 回未満あるいは 6 回異常のものは病脈である。

③ 遅脈

【脈状】脈拍数が一息で 4 回未満

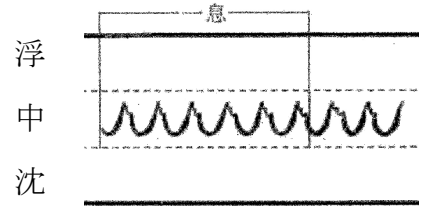


【主病】寒証（実寒・虚寒）

④ 数脈

【脈状】一息で6回以上

【主病】熱証



(3) 脈力の異常

* 脈力とは、脈に触れた指先に感じる拍動の強さのこと。

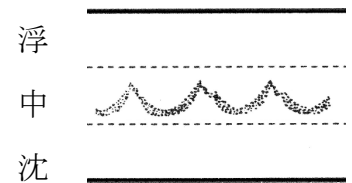
△ 少し力を加えただけで拍動が触れなくなる —— 「無力」

かなりの力に抵抗して強く拍動が触れるもの — 「有力」

⑤ 虚脈

【脈状】寸・関・尺の三部で浮・中・沈ともに無力な脈（浮・大・無力）一般には、無力な脈を虚脈と称する。

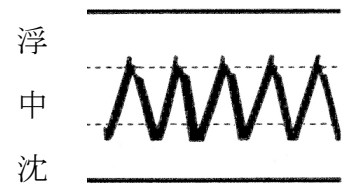
【主病】虚証



⑥ 実脈

【脈状】寸・関・尺の三部で浮・中・沈ともに有力な脈。

【主病】実証

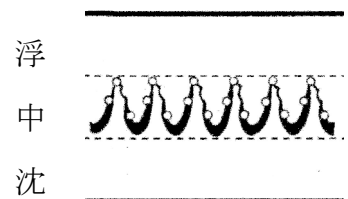


(4) 脈の動態の異常

⑦ 滑脈

【脈状】脈が来るときも去るときも円滑で、押さえた指先全体を舐めるように均等に触れ、盆の上で珠を転がすように流れによどみがない脈。

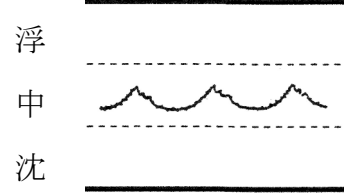
【主病】痰飲、食滞；妊娠



⑧ 澁脈（瀉脈）

【脈状】（滑脈とは対照的に）ざらざらとしていて、押さえた指先をこするように触れ澁滞したような脈。小刀で竹をこそぐような感覚。

【主病】瘀血、血虚

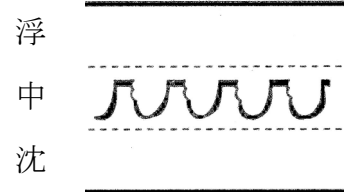


2. 祖脈以外で使えるようにしたい脈状

⑨ 弦脈

【脈状】ピンと張った弦のように、まっすぐで長くはっきり触知できる脈である。
（琴の弦を按えるような）直線的で力強い脈。

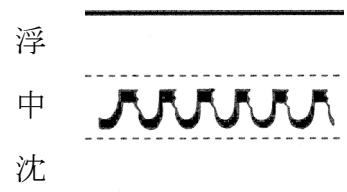
【主病】肝・胆病、諸痛、痰飲



⑩ 緊脈

【脈状】ピンと張ったように力強く触れ、しかも縄を緊張させたときのように脈が左右に弾動する脈。弦脈以上に緊張が強く、弦脈ほどまっすぐではない。

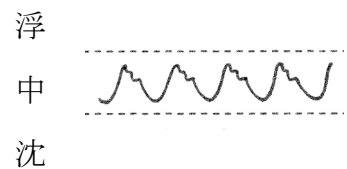
【主病】実寒証、激痛



⑪ 細脈

【脈状】通常の脈よりもかなり細く、糸のように感じる脈。
拍動は指ではっきり感じ取れる。

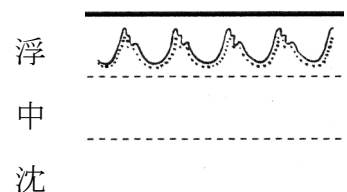
【主病】気血両虚、陰虚、湿証



⑫ 濡脈（浮・細・無力）

【脈状】脈位は浮で、細・無力であり、浮取すると触れるが沈取すると触知できない。

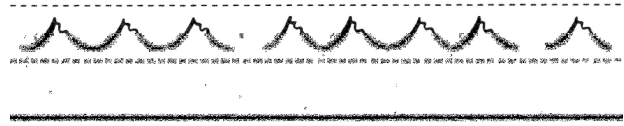
【主病】諸虚、湿証



⑬ 結脈

【脈状】脈拍が遅く（だいたい 60 回／分以下）、不規則に欠落するもの。

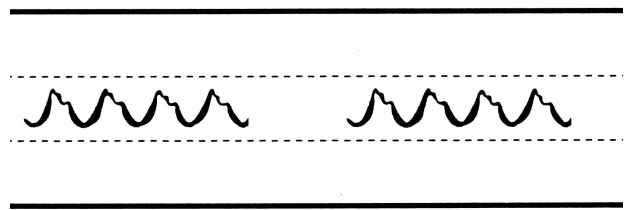
【主病】陰盛気結・寒痰血、（心）陽虚



⑭ 代脈

【脈状】脈拍の欠落が規則的であり、欠落している時間がかなり長く感じられるもの。

【主病】臓気衰弱、風証、痛証、七情驚恐、跌打損傷

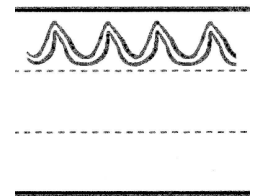


3. 区別できるようにしたいその他の脈

⑮ 芤脈（浮・大・中空）

【脈状】浮取すると大（脈）で明らかに触れるが、中取と沈取では無力。ネギの管を押さえるような感じがする脈。

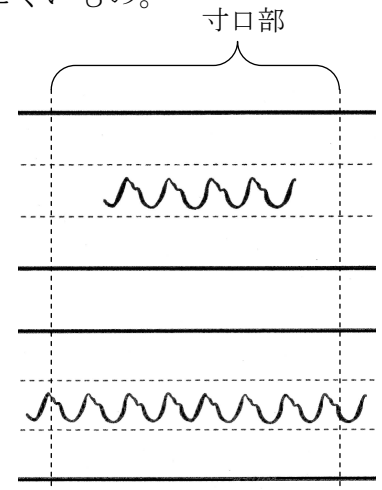
【主病】失血、傷陰



⑯ 短脈

【脈状】脈が短くて、関部では触れるが寸部・尺部では触れにくいもの。

【主病】気虚



⑰ 長脈

【脈状】脈がまっすぐで長く、寸部～尺部を超えて触れる。

【主病】肝陽実証

* 正常人でも見られるが脈象が柔和 ⇒ 気が充実している。

長脈 ⇒ まっすぐで長い（竿のよう）

⑱ 動脈

【脈状】滑・数で有力。脈の長さが短く、豆に触れるように感じる脈。

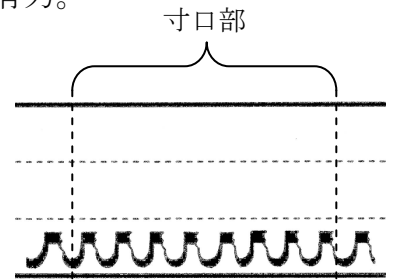
【主病】痛証・驚



⑲ 牢脈

【脈状】浮取・中取では触れず、沈取すると大・弦・長で有力。

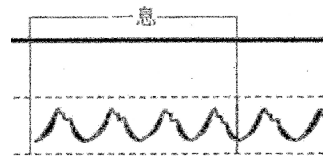
【主病】陰寒内実、疝気 ⇒ どちらも痛みを引き起こす



⑳ 緩脈 △ 緊脈の反対

【脈状】脈拍数が1分間65回ぐらいで、遅には至らないもの。

【主病】湿病、脾胃虚証

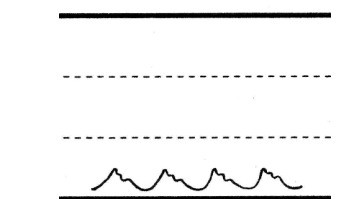


㉑ 弱脈 (沈・細・無力) △ 濡脈の反対

【脈状】沈取して初めて触知でき、細で非常に無力であり、強く圧すると消失する。

【主病】湿証、気血不足

*たんに「無力な脈」と間違えないように注意するべきである。

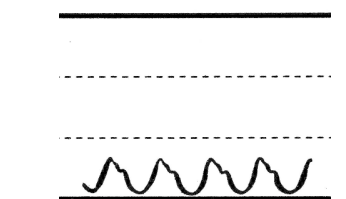


㉒ 伏脈

【脈状】沈取より更に深く、骨につくほど沈めて初めて触れる脈。

脈が細いので指先を左右に動かし探る必要があるが、探りあてるとかなり有力である。

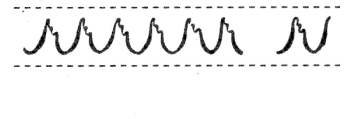
【主病】邪閉、痛極、厥証



㉓ 促脈

【脈状】脈拍が速く (だいたい90回/分以上)、不規則に欠落するもの。

【主病】実熱、気血痰飲停滞、虚脱



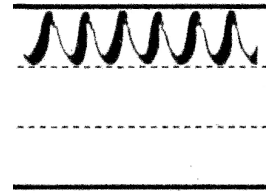
②④ 洪脈

【脈状】ゆったりと大きい脈で、拍動が力強く、浮取ではっきり触れる。

脈の去来に盛衰があり、来るときのほうが去るときより力強い。

△ 大脈は洪脈と似て大きい脈だが、脈の去来に盛衰がない。

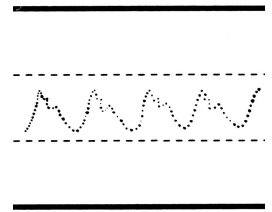
【主病】裏実熱証



②⑤ 微脈

【脈状】脈が非常に細く（細脈より細い）、かつ非常に弱く、触れるか触れないか不明瞭なもの。脈拍数も不明瞭。

【主病】陰陽気血諸虚



『似ている脈の比較』

1. 浮取の脈

- ① 浮脈 : 浮取ではっきり感じられ、力を入れるにつれて脈が弱くなるが中空ではない。
- ② 芤脈 : 浮取では大脈、中取・沈取では無力で中空。葱の管を押さえる感じ。
- ③ 濡脈 : 浮・細・無力。沈取すると触知できない。
- ④ 洪脈 : ゆったりと大きく、拍動が力強い。来盛去衰。

2. 沈取の脈

- ① 沈脈 : 浮取・中取ではっきりせず、沈取で明瞭に触れる脈。
- ② 牢脈 : 浮取・中取では触れず、沈取すると大・弦・長・有力。
- ③ 弱脈 : 沈・細・無力。沈取して初めて触知でき、細で無力。強く圧すると消失する。
- ④ 伏脈 : 沈取より更に深く沈めて初めて触れる脈。細いがかなり有力。

3. 脈動が遅い

- ① 遲脈 : 脈拍数が一息で 4 回未満。(60 回/分以下)
- ② 緩脈 : 脈拍数が 65 回/分ぐらいで、遅には至らないもの。
- ③ 結脈 : 脈拍が遅く (だいたい 60 回/分以下)、不規則に欠落するもの。

4. 脈動が速い

- ① 数脈：脈拍数が一息で6回以上。(90回/分以上)
- ② 細脈：通常の脈よりもかなり細く、糸のように感じる脈。
- ③ 動脈：滑・数・有力。脈の長さが短く、豆のように感じる脈。
- ④ 促脈：脈拍が速く(だいたい90回/分以上)、不規則に欠落するもの。

5. 脈状が無力

- ① 虚脈：浮・大・無力。寸・関・尺の三部で浮・中・沈ともに無力の脈。また無力の脈の総称。
- ② 細脈：通常の脈よりもかなり細く、糸のように感じる脈。拍動は比較的是っきりしている。
- ③ 濡脈：浮・細・無力。浮取すると触れるが沈取では触知できない。細くて無力。
- ④ 弱脈：沈取して初めて触知でき、細で非常に無力。強く圧すると消失する。
- ⑤ 微脈：脈が細脈より細く、非常に弱い。触れるか触れないかさえ不明瞭なもの。

6. 脈状が大きい

- ① 大脈：脈は太くて大きいが力強さや勢いはない。
- ② 洪脈：大きい脈で力強い。浮取ではっきり触れる。脈の去来に盛衰があり、来るときのほうが去るときより力強い。
- ③ 実脈：寸・関・尺の三部が浮・中・沈ともに有力な脈。

7. 心拍の乱れ

- ① 結脈：脈拍が遅い。欠落は不規則。
- ② 代脈：欠落が規則的。欠落している時間が長い。
- ③ 促脈：脈拍が速い。欠落は不規則。

【教科書での主要病脈とその主病】 p.117

名称	主病	名称	主病
浮脈	表証、(虚証)	実脈	実証
沈脈	裏証	弦脈	肝胆病、痛証、痰飲
遅脈	寒証	緊脈	実証、痛証
数脈	熱証	濡脈	湿証、虚証
滑脈	痰飲、食滞、湿証	細脈	血虚、陰虚
瀦脈	血瘀、血虚	結脈	血瘀、積聚、寒証
虚脈	虚証	代脈	臓気の衰退、痛証